

清正公400年遠忌記念

加藤清正と本妙寺の至宝展

⑤

本妙寺の山号「発星山」を大書氏に仕えた書家・学者である浩浩にしたもの。近年の熊本日韓文化交流研究会の調査により、文禄・慶長流研究の際に佐賀に連行され鍋島から連行された後に本妙寺三世と

然の書であることが判明した。浩浩と同様、清正により朝鮮

日遙と浩浩然の交流示す

なった日遙は、故郷の父へ宛てた書状の中で「友である浩浩然と故国の話をよくしています」と述べている。

この書は日遙と浩浩然との交流の中で、本妙寺にもたらされた作品であることは間違いない。書の名手として知られる浩浩然の作品としてはもちろん、激動の時代の中で朝鮮から連行された二人の、日本での交流の実態を知る上でも大変貴重である。(熊本日韓文化交流研究会 鳥津亮二)



発星山

＝ 終わり

※同展は15、21日、熊本市の鶴

屋百貨店東館7階ホールで。